

みんなのしあわせ
見つかるまち
にほんまつ

OUTLINE OF NIHONMATSU CITY
NIHONMATSU
二本松市
市勢要覧
福島県二本松市



OUTLINE OF NIHONMATSU CITY
NIHONMATSU

二本松市 市勢要覧

福島県二本松市

みんなのしあわせ 見つかるまち にほんまつ



〒964-8601 福島県二本松市金色403番地1 TEL 0243-23-1111



二本松市ウェブサイト



二本松市プロモーションビデオ
移住してみませんか、二本松

編集・印刷 株式会社 日進堂印刷所
発行 2018年12月



二本松市長
三保 恵一

二本松藩・丹羽家 10 万石の城下町として歴史を刻んできた、ふるさと二本松市。
福島県の県北地域に位置し、「智恵子抄」で詠われた安達太良山を西に仰ぎ、東の日山、
羽山が連なる阿武隈山地まで、東西約 35 キロメートルに及ぶ広大な市域を有し、その中
央部を阿武隈川が南北に流れ、豊かな自然は、住む人、訪れる人びとに、折々の恵みを授
け、やさしく包んでくれます。

二本松市は、霞ヶ城公園や戒石銘などの歴史的遺産、そして、福島県重要無形民俗文
化財の「二本松の提灯祭り」や、日本最大級の菊の祭典「二本松の菊人形」など、文化
の薫り高い観光都市であります。また、平和の提唱者として知られる歴史学者、朝河貫一
博士など、多くの偉人を輩出している土地柄でもあります。

市の運営にあたっては、平成 27 年 3 月に制定した「新二本松市総合計画」を指針とし、
市民の皆さまとともに、子どもからお年寄りまで、市民一人ひとりが夢と希望を持ち、
二本松に生まれて、育って、住んで、本当に良かったと思えるよう、50 年先、100 年先
の次世代を見据えた「住み良い二本松市」の礎を築いてまいります。

この要覧をご覧いただき、二本松市の姿をご理解いただくとともに、今後の市勢進展の
ために、温かいご支援とご協力をお願いいたします。

- 03 特集1 座談会「しあわせを実感できる“みんなが主役”の二本松を目指して」
- 07 新二本松市総合計画「二本松を元気に！新5ヵ年プラン」
- 17 特集2 移住者インタビュー | ターン・Uターンした方に聞きました
「元気な二本松市のここが好き！」
- 21 歴史 今に伝える先人の想い
- 24 コラム 「朝河貫一、今に生きる百年を超える憂国の警告」
政策研究大学院大学名誉教授 黒川 清 氏
- 25 祭り 受け継ぎつなぐ二本松魂
- 29 自然 笑顔かがやく美しい故郷
- 31 伝統工芸 まちに息づく、技と心
- 33 食 ころほころぶ故郷の味
- 35 GUIDE MAP
- 37 CITY PROFILE



ほんとの空のもとで
見つける、ほんとうのしあわせ

安達太良・阿武隈の山々に抱かれた美しい故郷、二本松。詩人・高村光太郎は「智恵子抄」の中で、
妻・智恵子のあどけない話として「あだたら山の上に毎日出ている青い空がほんとの空」だと
伝えています。澄み切った青空のもと広がる雄大な自然、城下町としての歴史がつくり上げて
きた格式と伝統。魅力あふれるこのまちには、笑顔を育むたくさんの可能性が詰まっています。
二本松は、その可能性をさらにふくらませ、市民の皆さんのしあわせを見つけることのできる
未来へ進んでいきます。



写真左より／三保 恵一市長、橋本 和成さん・篤さん（橋本仏具彫刻店）、武藤 稔貴さん・智哉さん（牛削蹄師）
橋本 花梨さん（チーズケーキ工房 & カフェ風花）

しあわせを実感できる “みんなが主役”の 二本松を目指して

人口5万5千人の人々が暮らす二本松市には、四季を彩る美しい自然と伝統文化が息づいています。今回は二本松の魅力について三保市長を交え、市民の皆さんと座談会を開きました。みんなが主役の二本松。たくさんのしあわせを皆さんも見つけてください。

守り受け継ぐ伝統もあれば 未来に向かって 育てる伝統もあります

市長 二本松には二本松の提灯祭り、小浜の紋付祭り、針道のあばれ山車、木幡の幡祭りなど、長い歴史を受け継ぐ祭りがたくさんあります。これらの伝統がまちの発展を支えるエネルギー、そして絆になっていると思います。橋本仏具彫刻店の橋本和成さん・篤さんはそれぞれ彫刻師と塗師として、仏具や祭具の修復などをされていますが、二本松の伝統文化についてどう思いますか。

和成さん そうですね。僕たちは家業が特殊ですので「伝統」というより



修復前後の面

むしろ、仕事の延長といった感じでしょうか。小さい時から家に帰ると、祖父母などが仕事をしている背中を見えていますから、日常の中に伝統があるというか…。伝統ってというと、誇りや重厚感といったイメージがありますが、最初から伝統だったわけではなく、必ず1年目があるわけで、それを次の世代につないでいくことが結果的に伝統になるのかなと思っています。

篤さん 私たちの仕事は“点”で、線になる一部を今つくっているところだということ、兄貴とはよく話しています。日々の仕事では、何十年も使いこまれて古びた祭具が、伝統的な技術で新しく生まれ変わって、依頼者から「本当にきれいになったね」「これならもっと頑張れるよ!」なんて言葉をいただくと、伝統の守り手としてやりがいを感じます。

市長 今日は牛削蹄師の武藤さん兄弟にも参加していただいています。家業を受け継ぐという点では橋本さん兄弟と同じですが、はじめから牛削蹄師になろうと思ったのですか？

稔貴さん ウチも親父の削蹄師という仕事を継いだ形ですけど、実は子どもの頃は牛が大嫌い…。高校を卒業してすぐに石垣島でホテルマンになりました。（一同笑）

花梨さん 私も二本松を離れて、沖縄県、石川県、徳島県で暮らしてからUターンして今は実家でカフェの運営を手伝っています。故郷の二本松に引かれて戻ってきたところは少し似ていますね。

市長 守り受け継ぐ伝統もあれば、未来に向かって育てる伝統もありますよね。二本松は城下町の歴史、菊人形など魅力的な観光コンテンツもたくさんあります。最近ではインバウンドも充実しています。岳温泉の盆踊りでは、多くの外国人観光客と一緒に踊りを楽しみました。市では「住んでよし・訪れてよし」の観光のまちづくりを進めていますので、若手の皆さんにもぜひ参画してもらいたいと考えています。和成さん、篤さんは、これから

どんなことに挑戦してみたいですか。

和成さん 仕事では、僕が彫刻、弟が漆を塗って仕上げている、兄弟で一つのを完成させることが多いのですが、こうした仕事とは別に、個人として木彫りの彫刻作品を県外や海外に向けて発表してみたいと考えています。福島県は震災を経験して、命の大切さ、生きることのすばらしさを強く意識する人が多くなっていると感じています。この時代に生きているからこそ、つくれるものがあると考えています。気持ちはずで「福島県代表」です！

篤さん 塗り師の職に就いて今年で14年目になりますが、覚えたいことはまだまだたくさんあります。蒔絵の世界では、金粉や銀粉、プラチナなどを使って絵を描く加飾技法というものがあるのですが、そうした技法を使った蒔絵のアクセサリーづくりのワークショップなどを開いて、たくさんの方に蒔絵に興味をもってもらえたらと考えています。

市長 お2人ともとてもいい目標ですね。伝統は守るだけではなく、「魅力を創り上げていく」という側面もあります。やってみたいことがあれば、何でもやる事ができる。二本松にはそうした可能性に満ちた活躍の舞台が、無限に広がっています。故郷でイノベーションを興すのは、故郷に暮らす人たちですからね。

たくさんの笑顔が集まる 故郷二本松の良さを もっと発信していきたい

市長 いま、篤さんからたくさんの方に故郷の伝統に興味を持ってもらうという話が出ましたが、花梨さんは、岳温泉観光協会の会員として地域のために尽力していますよね。二本松の魅力はどんなところだと思いますか。

花梨さん 故郷に戻ってきて今年で2年になります。私は現在、地元の皆



さんと一緒に企画を立てることで岳温泉の魅力アップに取り組んでいます。子どものころは二本松は田舎で何にもないところだって思っていました。でも、県外のまちで暮らして、地域づくりの仕事などに携わるようになると、不思議なことに以前は感じていなかった二本松の魅力が見えてくるようになりました。「ここにしかない田舎の良さ」というんでしょうか。

市長 外に出てみないと、故郷の良さは分からないものかもしれません。ちなみに花梨さんは二本松のどこが気に入っていますか？

花梨さん 実家のある岳地区はもちろんですが、安達太良山麓の牧草地と田園、そして青い空が広がる風景が好きですね。牧草地が広がる田舎って全国的に見てもあまり多くないように思います。それに二本松の空って本当に大きい「特別な空」という感じがします。ほかに、日本酒や岳温泉、上川崎和紙など、みんなに教えてくれるような田舎の良さが、そこかしこにあるところが二本松の魅力だと思います。



安達太良山麓に広がる牧草地

市長 二本松は、新鮮な野菜や果物、そして和菓子なども有名ですからね。花梨さんのカフェでは、地元産の牛乳を使ったプリンやクッキーなどのお菓子を販売していますが、ちなみに武藤さんは花梨さんと会うのは初めてですか。

智哉さん 花梨さんのお店の前を、仕事でよく通るのですが、直接お会いするのは今日が初めてです。お店のある岳北地区の乳牛の削蹄もしていま

すので、牛を通してですけど、つながりはありますよ。

花梨さん そうだったんですね。ふだんは見えないけれど、地元のつながりってすごいですよね。牛のお世話をするたくさんの仕事が重なって、新鮮な牛乳がお店に届いているんだって今日あらためて実感しました。



市長 人と人のつながりが濃いのも、二本松の田舎の良さの一つかと思えます。故郷にずっと住んでいきたいと思う人を増やしていくためには、生活の基盤づくりはもとより、安全・快適でにぎわいのあるまちづくりや、里山文化の再生なども「新しい二本松」を創っていくためのテーマとなりますが、若い世代に二本松の魅力を発信していくには、どうすれば良いと思いますか？

花梨さん 若い世代はウェブなどで情報を見て動くことが多いので、SNSでまちの魅力を発信するのが良いのではないのでしょうか。ただし、一人ひとりがバラバラに情報を発信するのではなく、魅力のあるコンテンツを集約・共有・デザインして届けることが、今後ますます重要になると思います。

市長 行政でも魅力あるコンテンツづくりを後押ししていきたいと思えます。住環境という点で、市は現在、二本松駅周辺を二本松市の中心拠点として、二本松駅南口のまちづくりを進めています。また、安達駅周辺では、新しい駅舎が完成し、住宅団地や商業施設の整備も進んでいます。杉田駅周辺では、駅前の道路整備や長命工業団地の整備などを進める計画です。二本松に住んでみたいと、たくさ

んの人を選んでもらえる快適な住環境をつくっているところです。

花梨さん ほんとの空の下に、たくさんの笑顔が集まるまちになったらすきですね。

異業種と結びつくことで 農業の新しい価値が 生まれています

和成さん 牛削蹄師ってあまり聞かれない職業ですが、どんな仕事なんですか？

稔貴さん 皆さんによく聞かれます。削蹄とは、牛の健康を維持するために伸びた蹄^{ひづめ}を削って整える仕事です。作業には鎌型蹄刀^{かまがたいとう}(牛用の爪切り)と削蹄剪鉗^{きくたいせんかん}(牛用のニッパー)を使いますので、常に危険と隣り合わせです。



削蹄の様子

花梨さん ちなみに牛の体重ってどれくらいあるんですか？

稔貴さん 個体にもよりますが、1頭約800kgぐらいあります。牛は1頭1頭、性格や癖なんかも違いますので、コミュニケーションを取るのがとても難しいですね。それが牛削蹄師の仕事の醍醐味でもあるんですけど。

市長 稔貴さんはUターンで削蹄師になりましたが、智哉さんはいつから牛削蹄師の仕事をしているのですか。

智哉さん この仕事を始めて1年5カ月ほどで、まだ駆け出しです。大学卒業後に関東でサラリーマンとして働いていたのですが、これから先20年後、30年後、自分は何を指すんだらう



と考えたとき、故郷の慣れ親しんだ牛が頭に浮かんできたんです。すでに兄貴が親父のもとで働いていたので、自分も家業の手伝いではなく、仕事として頑張ろうと二本松に戻ってきました。

市長 なるほど。それで今では兄弟で頑張っているわけですね。稔貴さんは、一昨年の全国牛削蹄競技大会で最優秀賞(農林水産大臣賞)を受賞した日本一の牛削蹄師ですが、二本松の農業についてどう思いますか？

稔貴さん 後継者の育成が一番の課題だと感じています。酪農に限っていうと、牛を育てたいという若手は潜在的には多いと思うのですが、設備投資や堆肥の処理といった経営的な問題もあって、なかなか踏み出せないという状況もあります。キュウリやトマトを育てるような感覚で気軽に牛が飼えるような時代になるといいと思うのですが。

市長 たしかに後継者育成は喫緊の課題ですね。酪農、野菜、果物など、農業にはたくさんの可能性が秘められています。次代に向けて農業を育てていくためには、たくさんの人がつながる土台づくりが欠かせません。市では、認定農業者の育成支援や農家民宿などにも力を入れており、農業の振興を図っているところですので、二本松ならではの農業の発展が期待されているところです。

篤さん 今日の座談会のように、異

業種の人同士がつながると、いろいろ面白いことができそうですね。

市長 先日、二本松市内の農業法人が栽培・販売するイチゴと、同じく市内の酒蔵が連携して、イチゴのリキュールをつくることに成功しました。また東和地区では、市内で収穫された果物を使ったワインやシードルをつくつてすでに全国に展開しています。それぞれの持ち味を活かすことで、みんながワクワクするような農業の新しい価値が生まれています。こうしたものづくりは今後ますます加速していくと思っています。

花梨さん 二本松にはカボチャ、サツマイモ、ブルーベリー、リンゴなど、おいしい野菜や果物がたくさんありますから、私も商品開発にチャレンジしてみたいです。6次化などで新しいブランドが生まれたいと思います。

智哉さん ブランドといえば、自分たちが普段ユニホームとして着ている服をアレンジしてみたんです。今後パレル化して牛削蹄師のことを、もっと皆さんに知ってもらうことができればと思っています。酪農家さんからの評判も上々で、こうしたものを商品化してお店などで販売できるようになれば、二本松の農業の魅力を発信できるんじゃないかと考えています。



智哉さんデザインの作業服

市長 今日は二本松の新しい未来を拓く皆さんとお会いできて、本当にうれしく思っています。故郷の伝統文化や、そこに暮らす人たちのたくさんの絆、農業の振興などについて、多くの意見やアイデアをいただきました。本市の将来像キャッチフレーズ『いま拓く豊かな未来 二本松』に向けた事業と合わせて、しあわせを実感できる“みんなが主役”の二本松を目指して、市民の皆さんと手を取り合いながら進んでいきたいと思っています。これからもよろしくお願ひいたします。

全員 よろしくお願ひいたします。
(2018年9月14日：於 大山忠作美術館ロビー)





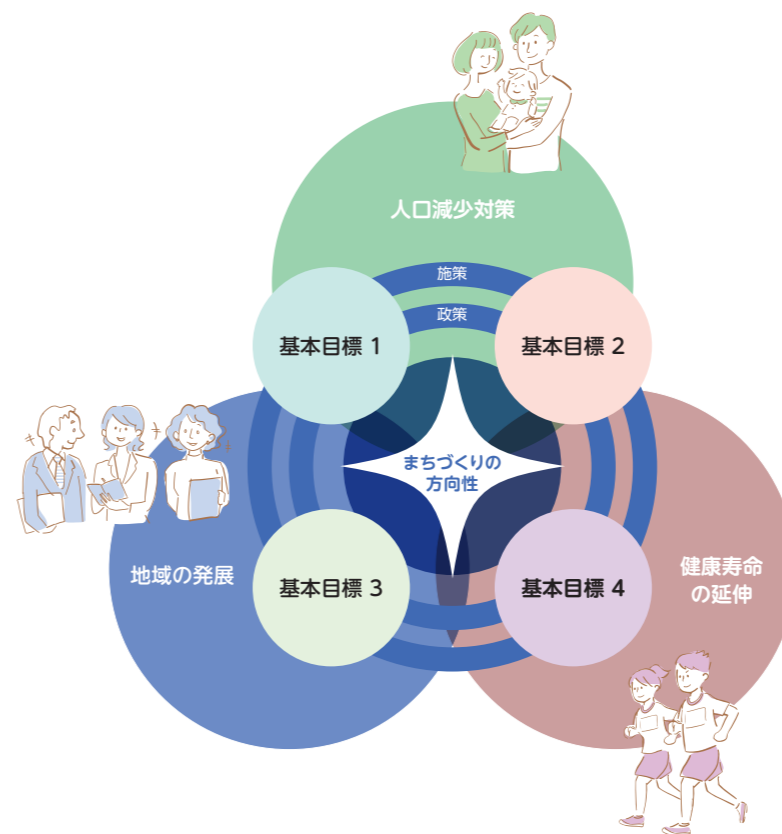
はな咲く、はぐくむ、みんなのしあわせ

新 二本松市総合計画

「二本松を元気に！ 新5カ年プラン」



二本松市では、平成27年3月に新たな総合計画として「二本松を元気に！新5カ年プラン」を策定しました。このプランは平成28年度から平成32年度までの5年間の計画で、4市町合併後10年間の総合的な施策の方向性を継承しながら、早期に、かつ重点的に推進すべき目標と政策を定めています。中でも「人口減少対策」と「地域の発展」さらに「健康寿命の延伸」をプランの3大重点事項として位置付け、積極的に取り組んでいます。限られた財源の中で費用対効果を最大限に発揮できるよう事業を進めていきます。



まちづくりの方向性

推計では市の人口が平成32年に52,300人にまで減少することが予測されています。そこで拠点機能整備による宅地開発、にぎわいの創出と人口の流出抑制等の事業を進め、53,000人を維持できるよう努めます。

市役所・二本松駅周辺を「中心拠点」に位置付け、霞ヶ城公園周辺から中心市街地にわたって魅力ある空間づくりを進め、商業・文化機能などの集積を促進します。杉田駅・安達駅周辺は中心拠点を補完する「サブ拠点」として整備を進め、二本松駅から安達駅の周辺にかけては市街地が連続していることから、「中心エリア」として連携を図っていきます。また、小浜・針道地区は、支所を中心に生活の利便性を確保し、暮らしの安心を守る「地域拠点」として地域の定住人口の安定に努めます。



基本目標 1

子どもや若者の未来を創るまち

安心して子どもを産み育てられるよう子育て家庭の支援と環境整備を進めます。また、次代を担う子どもたちの確かな学力・健やかな心身の育成に努め、地域と家庭が連携した教育を推進します。定住促進では、生活基盤と多様な就業の場の確保に努め、若者の新たなチャレンジを支援するとともに、居住環境を整備し暮らしやすいまちをつくります。



2 学校と家庭、地域が連携して 子どもの教育を推進します

学校では心身ともに健やかでたくましく、郷土を愛する心を育てるとともに、学校、家庭、地域が連携・協力し、思いやりと責任をもって子どもたちを見守ります。

- 学校教育の充実
- 学校と家庭、地域が連携した教育の推進
- 学校教育環境の整備充実

3 若者の定住を促進します

若者が二本松に愛着を持ち、地域の中で活躍し、安心して家庭を築くことができるよう、三世同居住宅改修助成や、国際留学助成、結婚推進支援などを行い、若者の定住を目指します。



- 若者の生活基盤の確保
- 多様な就業の場の確保と若者のチャレンジ支援
- 出会いと交流の促進

PICK UP

安達駅周辺を整備しました

交通渋滞の解消や安達駅の利用者の利便性向上を図るため、地域の皆さまのご協力をいただきながら、平成24年度から整備を進め、平成29年度末に完成しました。安達駅舎も新しくなりました。



1 子どもを産み育てやすい まちをつくります

特定不妊治療費助成、産後ケアや子育て支援アプリの配信などを行い、出産や育児に対する不安を軽減し、親子の笑顔を大切にします。



- 妊娠・出産、母子の健康づくりの支援
- 子育て家庭の負担軽減
- 働きながら子育てできる環境の整備

PICK UP

「mamaになるならにほんまつ。」 子育て支援アプリ配信

子育てに役立つ情報が1つにまとまった便利なアプリ。お子さんの生年月日(出産予定日)を登録すれば、予防接種の案内や乳幼児検診のお知らせ、妊婦さんへの応援メールを受け取れます。



4 居住環境を整備し 暮らしやすいまちをつくります

人が行き交い、にぎわいのある空間を創出し、地域の特性を活かした良好な居住環境を整備していきます。(二本松駅南地区整備、安達ヶ原ふるさと村公園整備など)

- 良好な市街地の形成
- 道路ネットワークの整備
- 多世代が集う憩いの場づくり

みんなのしあわせ 見つかるまち
にほんまつ

【Voice】

地域の支えで実現した授業 この貴重な経験に感謝したい



安達東高校では震災前、綿羊の飼育をしていましたが、原発事故の影響で全頭処分となってしまいました。それに代わる家畜としてたどり着いたのが養蜂だと聞いています。先輩や先生方に聞いた話なのですが、地元の養蜂家の方の教えを受けて始めたものの、最初の年はスズメバチに襲われて全滅、2年目は冬を越せず、3年目にしてようやく蜂蜜をとることができたそうです。私は今まで何も考えずに蜂蜜を食べていましたが、蜂の世話をするようになって、蜂蜜ができるというのはこんなに大変なことなのだと知りました。それだけに、自分たちが作った蜂蜜が、商品として地元の道の駅に並んでいるのを見るのは、とてもうれしいです。私は実際に対面販売も行ったのですが、お客様に自分の商品を売るという減多にできない経験からコミュニケーション能力が鍛えられたと感じています。将来、どのような職業につくにせよ、養蜂で学んだこの貴重な経験を生かしていきたいと思っています。

一生懸命つくった
蜂蜜です！
ぜひ味わって
みてください。



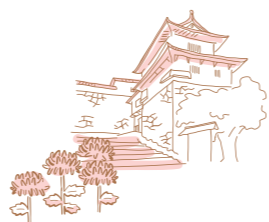
安達東高校
農業コース畜産専攻
佐藤 翔太さん

基本目標
2

郷土愛にあふれ 活力とにぎわいのあるまち

歴史と文化を活かし魅力ある観光都市を目指すとともに、おもてなし観光を推進します。また中心市街地と地域商業を活性化し、産業と物産を振興することで、活力とにぎわいのあるまちづくりを進めます。

農業では、多様な担い手育成に取り組み、ブランド化と販路拡大を推進します。また、地域活動を支援しながら、特性を活かした地域づくりを進めます。



2 商工業の振興で にぎわいのあるまちをつくります

匠のいるまち二本松として日本酒、家具、菓子などの地場産業の情報発信を進める一方、店舗等施設整備費補助で支援を行い、空き店舗を活用し新規創業への取り組みを推進し、にぎわいの創出に努めます。

- 中心市街地と地域商業の活性化
- 地域産業と物産の振興
- 多様な就業の場の確保



3 個性あふれる 地域農業を形成します

農業経営者の高齢化や担い手不足を解消するため、認定農業者の経営支援や集落営農組織の法人化に向けて積極的に取り組みます。また農業の6次化を推進し、農産物のブランド化を図ることで販路の拡大と農業経営の安定化を目指します。

- 農業担い手の育成と生産基盤の整備
- ブランド化の推進と販路拡大

PICK UP



販路拡大と地産地消の推進 「ごんぼコロッケ」

市では、地域農産物を生かした商品開発を行い、ブランド化の振興を行っています。道の駅さくらの郷が開発し、市内の道の駅統一ブランドとして販売している「ごんぼコロッケ」は、手軽に食べられる道の駅グルメとして人気です。

4 特性を活かした地域づくりを進めます

地域おこし協力隊や地域イベントの支援を行い、地域の伝統や文化を再発見するとともに、二本松市が幅広い世代の人々から、定住先のひとつとして選ばれるよう、地域住民と都市住民との交流を促進します。また、グローバルな視点を持つ人材の育成と市民目線での国際交流を推進することで、国境を越え世界に開かれた都市づくりを進めます。

- 個性あふれる地域づくりの推進
- 地域自治活動の推進



PICK UP



国際友好都市交流事業を 実施

二本松市が生んだ世界的歴史学者である朝河貫一博士のご縁で、米国ハノーバー町と1999年7月に友好都市の提携調印をし、毎年、中学生の派遣事業を行うとともに、ダートマス大学生の受け入れを行い交流を深めています。

1 歴史と文化を活かし 交流人口を増やします

二本松市を訪れる観光客の皆さんに魅力をたくさん感じていただけるよう、各種キャンペーンの充実強化を図るとともに、海外からの観光客へのおもてなしを推進するなど、観光都市として二本松市ならではの魅力を向上させ、地域活性化につなげます。

- おもてなし観光の推進
- 観光資源の発掘活用、整備
- 文化財の保護・活用と文化芸術活動の推進

PICK UP

「観光立市」イメージアップを推進

観光資源の積極的なPRとおもてなし観光を推進し、城下町二本松を訪れる観光客が、さまざまな魅力を楽しみ、おもてなしの心に触れることにより、市民との交流を広げることで、地域の活性化を図ります。



みんなのしあわせ 見つかるまち
にほんまつ

【Voice】

技も人格も育ててもらうもの 人に喜ばれる仕事で恩返しを



まくてい
ひづめ
削蹄とは牛の健康を維持するために伸びた蹄を削って整える仕事のことですが、700～800kgの牛の足元での作業のため常に危険と隣り合わせで、決して楽な仕事ではありません。その仕事を長男が継ぎたいと言った時は、うれしいよりも心配の方が先立ちました。ただ、技術を持った削蹄師は年々少なくなっており、酪農家から後継者を心配する声を常々耳にしていたので、ほっと肩の荷が下りた気持ちもしましたね。

息子には日本一厳しいといわれる削蹄師のもとで修行させ、今も時間がある時は各地の削蹄師仲間のところに預けて技術を学ばせています。お客さまとのやり取りも、今は極力任せているのですが、みんな息子を気にかけて、何かと声をかけてくれるのでありがたいですね。

一昨年には次男も削蹄師になりました。息子2人が削蹄師を継いでくれたことはうれしいですが、危険な仕事だけに不安もあります。息子たちにはケガに気をつけながら技術を磨き、お客さまに喜ばれる仕事をしたいと願っています。

あうんの呼吸で
仕事ができるのは
親子ならではの
しみません。

牛削蹄師
武藤 靖雄さん



基本目標 3

いつまでも元気で 生きがいのもてるまち

市民一人ひとりが健康に関心を持ち、運動を実践することで自分らしく健康的に暮らせるよう、保健事業の充実と生涯スポーツの推進を図ります。また、自主的に生涯学習を実践し学ぶことのできる機会を提供し、生きがいにつながる文化・芸術活動を推進するとともに、地域の社会活動と連携することで、地域の活性化を図ります。



2 生涯学習を推進し 生きがいのあるまちをつくります

市民講座や女性高齢者学級などを開催し、それぞれのライフステージを充実させることができるよう、生涯学習の機会を提供します。生涯学習や文化活動の拠点となっている公民館や図書館は、多くの市民の方々が気軽に利用できる学習の場として活用できるよう整備の充実に努めます。

- 生涯学習機会の提供
- 生涯学習環境の整備



PICK UP

生涯学習プログラムを充実させています

地域公民館を生涯学習や交流の場として位置づけ、地域の多様なニーズに応えることができるよう、市民講座、女性学級、高齢者学級など各種生涯学習プログラムを開催しています。



1 元気・健康で生涯スポーツの 盛んなまちをつくります

市民一人ひとりが、健康で元気に暮らせるよう、保健センターを中心に、健康に関する教育・相談・検診などに取り組むとともに、各種検診や予防接種事業など保健サービスの充実を図ります。また、幅広い世代で多くの市民がスポーツに親しめるよう、スポーツクラブの運営支援を行うとともに、運動施設の整備を進めます。

- 生活習慣病予防と健康寿命の延伸
- 生涯スポーツの振興



PICK UP

児童のスポーツ力を向上

市内全小学校、スポーツ少年団およびスポーツ団体等に、優れた指導技術を実践している指導者による実技指導を実施し、個々の身体能力向上、選手、指導者の技術向上を図っています。



みんなのしあわせ 見つかるまち
にほんまつ

【Voice】

介護予防で始めた水中運動で 仲間の輪が広がっています！



私たちは、市の介護予防教室「泳がない！水中運動教室」の参加者です。それまで健康に良いと分かっている、機会が無くなかなかプールに行くことができませんでしたが、昨年、市に完成した屋内プールで、水中運動教室があると知り、「これだ！」と思い応募しました。最初は、水着になるのに気後れましたが、先生の話が面白くて夢中で体を動かしているうちにそんな考えは吹き飛びました。とにかく楽しくて笑いが絶えませんでしたね。教室が終わる頃にはみんな友達になっていて、最後の回には打ち上げもしたんですよ。それに何よりうれしかったのは、それまで抱えていた膝痛や腰痛が良くなったこと。少しずつ筋肉が付いてきたおかげかなと思っています。

教室に参加するうちに、今度は泳いでみたいと思うようになり、今では3人とも水泳教室に通うようになりました。運動は続けることが大事。これからも楽しみながら仲間と一緒に水中運動を続けていきたいと思っています。



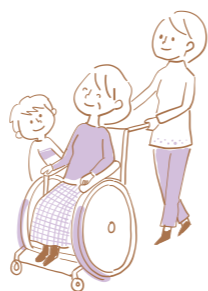
(左より)
遠藤 常子さん、岡村 貞子さん、
高島 礼子さん

基本目標 4

助け合い、支え合い、安全に安心して暮らせるまち

地域医療や介護、福祉サービスの体制を充実し、地域全体で助け合い、支え合える体制をつくります。

また市民の生命、財産を守り安全に安心して暮らせるよう、災害等に対応できるまちづくりや交通安全意識の向上、防犯対策を進めるとともに、環境に配慮したまちづくりを進めます。



1 ふれあいのあるやさしい福祉社会と医療体制をつくります

高齢者になっても元気で健康で自立した生活が送れるよう、配食サービスや生きがいデイサービスなどの事業を充実させるとともに、高齢者の相談窓口となる地域包括支援センターを中心に、地域の実情に合わせた福祉サービスを提供していきます。また、地域医療機関との連携を強化し、医療体制の充実を図ります。

- 高齢者や障がい者への福祉サービスの充実
- 医療の充実
- 社会保障制度の充実



PICK UP

デマンドタクシー運行

予約制の乗合型タクシーです。ジャンボタクシーで自宅から、運行区域内の目的地まで運行します。あらかじめ利用登録の手続きが必要です。



2 市民の生命と財産を守ります

自然災害などの発生時に被害を最小限に抑えることができるよう、ハザードマップの整備や情報伝達システムの構築などを行い、防災対策を強化します。市民の暮らしの中で、犯罪、交通事故がないまちを目指すとともに、警察、消防などの関係機関と連携を図りながら、市民のさまざまな生活相談に柔軟に対応できるよう取り組んでいきます。

- 防災対策の推進
- 暮らしの安全対策の充実
- 放射線対策の推進



PICK UP

防災対策の推進

毎年9月に、災害発生時における応急対応を迅速かつ確に行えるよう、地域住民参加のもと、防災訓練を実施しています。



3 自然と共生し環境に配慮したまちをつくります

二本松市の安全でおいしい水を提供し続けられるよう、水質の管理、施設の計画的な整備に努めます。また、再生可能エネルギーの導入を推進するとともに、ごみの減量化、再利用、再資源化による循環型社会を形成し、環境負荷の少ない持続的発展を目指します。

- 水の安定供給
- 生活排水処理による水環境の保全
- 自然と森林環境の保全
- 資源の循環利用と環境負荷の低減

PICK UP

新エネルギー導入を促進

原子力発電や化石燃料に依存しない脱炭素社会実現のため、太陽光、小水力、バイオマス発電等の再生可能エネルギーによる地方創生の推進を目指します。住宅の屋根に太陽光発電を設置する市民の方への補助金制度を設け、市有施設にも太陽光パネルを積極的に設置します。



みんなのしあわせ 見つかるまち
にほんまつ

【Voice】

地域の安全を守り続けて12年 子どもの笑顔が力の源



二本松市には交通教育専門員が7名おり、交通安全普及のために日々活動しています。具体的には、地域での街頭活動や学校での交通教育、登下校時の交通指導を行っています。

毎日の交通指導は大変ですが、つらいと思うよりも地域の子もたちの笑顔を見られる喜びの方が大きいですね。表情がさえない子にも、笑顔で「いってらっしゃい」と声をかけるようにしています。一方で、横断歩道を渡らせる時は神経をとがらせます。この辺りは交通量は少ないのですが、スピードを出す車が多くて…。子どもの脇を車がすり抜けていき、ヒヤリとしたこともあります。子どもの事故は絶対起こさせないぞという気持ちで毎日取り組んでいます。

私のこうした姿を子どもたちも見てくれているのでしょうか。入学時から指導してきた子どもたちが、卒業する際に感謝の手紙をくれました。これは私の宝物。これからも子どもたちの元気な笑顔を守るため、頑張って専門員を続けていきたいですね。

私の娘を交通指導する専門員を見て、いつかは自分も思っていました。



二本松市交通教育専門員代表
安齋 菊雄さん

1ターン・Uターンした方に聞きました 元気な二本松市の ここが好き！



仕事も趣味も子育ても、
全てが実現できた場所です

Interview
1
ターン
やまのパン屋
しゃっぼ

高橋 俊勝さん・フミ子さん
勝比古さん・貴子さん（東京都出身）

東京都出身の俊勝さんと旧東和町出身のフミさんは昭和45年に結婚。都内で27年間パン屋を営んでいたが、平成11年に移住。店を手伝っていた末っ子の勝比古さんと、移住に合わせて結婚した貴子さんの4人で「やまのパン屋しゃっぼ」をオープンした。



私たちの「故郷」が ここにありました

俊勝さん・フミ子さん

東京の店は2店舗に加え、5人の子どものにも恵まれ充実していましたが、盆も正月もないほど忙しい毎日。お客さまの顔が見えないという悩みもありましたし、“子孝行”じゃないですけど、子どもたちが帰ってきてホッとする「田舎」を作りたいとずっと思っていました。そ



んな時、ラジオでお隣りの大玉村が紹介されていたのを聞いて良いところだなと感じ、見学することにしたんです。役場に教えてもらった不動産屋に紹介された物件をいくつか回ったのですが、県道沿いのこの場所が気に入り二本松に移住を決めました。

この周りには家が数軒ある程度で、店を出した当初はここでパンが売れるのか

と不安でしたが、暮らしてみると温泉やスキー場、キャンプ場が近いので前の道は車の往来が多く、これなら大丈夫と確信しました。「住む」ことについては、地元の人を受け入れてくれるかとても心配でした。でも、近所の人がかかと気にかけてくれて、すぐに馴染むことができましたね。

今は息子たちに店を任せ、ようやく自分たちの時間ができました。趣味の登山やスキーを楽しんだり、最近では社交ダンスのサークルに入り、いい友人にも恵まれています。今では「ここで生まれたのかな？」なんて思うぐらい（笑）、地域に溶け込んでいますよ。

都会暮らしとの違いは 時間に余裕が持てること

勝比古さん・貴子さん



東京での暮らしと二本松に来てからの年月がほぼ同じになりましたが、今はインターネットが普及してパンの材料もすぐ手配できるし、都会との情報格差もないので、特に不自由はないというのが率直な感想です。仕事内容は同じだし、車があればどこにでも行けるので、不便と感じることはありません。自分で仕事をつくり出せる人なら、田舎の方が満員電車に揺られて通勤しなくてもいいから、生活に余裕ができると思いますよ。

移住したばかりのころは、知り合いの居ない場所で暮らすことに不安もありましたが、地元イベントに参加したり、子どもが生まれるとさらにその輪が広がっていきなり、自然に人との交流が深まっていきました。上の子は今、小学2年生で同級生は4人。少ないからこそ全校生が仲良しですし、学校には温水プールや望遠鏡もあり、恵まれた環境だと感じています。自然が豊かで、子育て世代には最適な場所ですね。

店のお客さまからは、「ここに来ると落ち着く」と言ってもらったこともあり。素朴な里山をイメージした商品をそろえているので、田舎暮らしに興味がある方は、ぜひ話を聞きに立ち寄ってほしいですね。

暮らしで発見

“ほんとの空”の下に広がる豊かな自然

安達太良山を始めとする豊かな自然に囲まれた環境は、登山やスキーが趣味のわが家にはまさにうってつけ。それと、毎日遠く美しい山々を見て過ごしているせいか、以前は車の運転の際に眼鏡が必要だったのに、ここに来てから視力が回復してびっくりしました。

【二本松のここが好き！】

交通のアクセスが便利で移動もラクラク

二本松インターチェンジへは20分ぐらいで、福島市や郡山市にも行き来しやすい場所。車がなければ普通の買い物も特に不便はありません。福島県は広くて山も川もいろいろ楽しみがあるので、仕事もプライベートも充実させたい人にはオススメです。

Interview
特集 2 移住者インタビュー



地元を離れたからこそ見えてきた
魅力がたくさんあります

Interview
U
ターン
チーズケーキ工房&
カフェ風花

橋本 花梨さん
(二本松市出身)

高校卒業後、県外の大学へ進学するも在学中に東日本大震災が発生、実家のチーズケーキ工房&カフェ風花の運営を手伝う。その後、再び県外へ出向いて観光事業の経験を積み、二本松へUターン。風花の「看板娘」を務めつつ、活気ある地域づくりにも取り組んでいる。

地元っていいな！
改めて感じた良さを届けたい

二本松で生まれ、家族がカフェを経営する姿を見て育ちましたが、自分も同じ仕事をしたいという思いは昔はそれほど強くありませんでした。転職となったのは、大学1年の時に起きた東日本大震災。客足が遠のいた店をどうにかしなければと、約2年間休学し運営を手伝いました。その後、観光について学ぶことで店と二本松に活気を取り戻したいと、大学を退学して沖縄、徳島、石川に移住し地域おこし人材育成スクールに通ったり、移住コンシェルジュとして働いたりしながら

経験を重ね、2017年4月、Uターンしました。それから本格的に接客、メニューの開発、店内の装飾、SNSでの情報発信などに励んでいます。

休みの日は、横浜出身の二本松市地域おこし協力隊の友人と観光地やカフェ巡りをしていて、二本松の魅力を再発見することがしばしば！二本松を一度離れたからこそ客観的に見えてきたものや、地元民は気付かないけれど県外の人から見るといいと感じることがあると気付きました。その経験は岳温泉観光協会会員としての観光PR活動にも活かしています。

これからもどんどん二本松の魅力を発信し続け、幅広い年代の方にここが好きと言ってもらえるよう頑張りたいと思います。



暮らしで発見
【二本松のここが好き！】



心を癒やす「田舎らしさ」

二本松に戻ってきた時、空が広いなあと感じました。まさに智恵子抄の「ほんとの空」ですね。都会では見られない安達太良山麓の広々とした牧草地も好きです。登山やスキーのほか、さまざまなアクティビティ体験が楽しめるのも特徴。とても素敵なおとくに生まれたのだから、私自身が二本松をもっと楽しんで、その魅力を発信したいと思います。



やりたいことを後押ししてくれる
地域の温かい心がうれしい

東京にある「ふるさと回帰支援センター」で、二本松市の移住定住セミナーを見つけて参加しました。耕作放棄地を再生して農業をするという事業に魅力を感じて東和地域を訪れた際、町の人々の温かい対応に感動し移住を決めました。今は自分のやりたいことを自分のペースでできるので、会社員時代とは異なる達成感や充実感に満ちた生活が送れています。こうした毎日を過ごせるのも、二本松市の新規就農者に対する支援体制が充実していたことや、やりたいと思ったことを後押ししてくれる地域の人々のサポートがあったからだと思っています。地域の人にとって支援することは、決して特別なことではない、ごく普通のことらしく外から来た人間としてはすごく心強かったですね。農業に興味がある方は実際に現地を訪れて、その土地や人が自分に合うかどうか知ることをお勧めします。

やり方や工夫次第で大規模農業ではない、農業を楽しめる環境がここに

はあります。これからは子どもたちの大好きなイチゴを作って、みんなが楽しく集まれるような観光農園をやりたいと思っています。そしていつか子どもたちと一緒に農業ができる日が来たらうれしいです。



Interview
I
ターン

めぐり農園

小林 正典さん・愛枝さん夫妻
(東京都出身)

東京都に生まれ育ち、長年会社員として勤務していた正典さん。農業に触れて充実感のある仕事がしたいと東日本大震災の直後、二本松市東和地域へIターン。1年間の農業研修を経て独立。現在は無農薬野菜づくりや平飼養鶏を行い、採れた卵は地産地消する循環農業を目指している。



暮らしで発見
【二本松のここが好き！】



地域が子どもを育ててくれる

地域に子どもが少ない分、周りの皆さんが子どものことを気にかけてくれ、みんなで子育てをしているような感じです。また周囲には自然がたくさんあるのも魅力。ありのままの自然の中で子どもをのびのびと育てられるので、子育てする上でとても良い環境だと感じています。





歴史

History

今に伝える先人の想い

古くは万葉の時代からその名が知られた二本松。奥州街道の要衝にある城下町として栄えてきた時代を経て現代まで、先人が刻んできた歴史には、故郷への想いがたくさん詰まっています。

二本松の歩み

645年	大化1年	大化の改新が起こる。
658年	斉明5年	陸奥国が成立する。
710年	和銅3年	平城京に遷都する。
724年	神亀1年	陸奥国に多賀城を設置する。
780年	宝亀11年	この頃、万葉集が編纂され「あたら」3首が入る。
794年	延暦13年	平安京に遷都する。
796年	延暦15年	坂上田村麻呂が陸奥出羽按察使兼陸奥守兼鎮守府将軍となる。
807年	大同2年	観音寺・相応寺・円東寺が徳一により開基される。
863年	定観5年	陸奥国小結温泉神が従五位下を授かる。
881年	元慶5年	弘隆寺(のちの治隆寺)を天台別院とする。
897年	寛平9年	小湯日温泉神が正五位下を授かる。
906年	延喜6年	安積郡を削いて安達郡ができる。
1151年	仁平1年	陸奥国(のちの安達荘)が成立する。
1159年	平治1年	平治の乱が起こる。この頃末法思想が広まる。(木幡山経塚群)
1189年	文治5年	安達盛長が安達保の総地頭職に任ぜられる。
1218年	建保6年	安達保が安達荘となる。(総地頭職は安達景盛)
1345年	貞和1年	吉良貞家・畠山国氏が奥州管領に補任される。畠山氏は塩沢の田地ケ岡に、吉良は上長折の塩松に居を構える。
1351年	観応2年	畠山高国・国氏父子が吉良貞家に攻められ岩切城で自害する。
1413年	応永20年	畠山国詮が奥州探題に補任される。
1414年	応永21年	この頃、畠山満泰が白旗ヶ峯に城を築き、二本松城と号す。
1471年	文明3年	石橋義衡が本拠を上長折から太田の住吉山城に移す。
1583年	天正11年	畠山義継が小浜城主大内定綱と連合し、百目木城主石川弾正を攻める。

1585年	天正13年	畠山義継が伊達輝宗を宮森城で拉致し逃走、高田原にて兩名が戦死する(粟ノ須の変)。
1586年	天正14年	伊達政宗が二本松城を攻め落とし、畠山氏は滅亡する。
1588年	天正16年	伊達政宗は相馬義胤と結ぶ石川弾正を攻め、小手森城・百目木城などの諸城を落とす。
1591年	天正19年	豊臣秀吉の奥州仕置に際し、豊臣秀次・徳川家康らが二本松城に宿陣する。
1598年	慶長3年	安達郡などが蒲生氏郷領となる。
1601年	慶長6年	蒲生秀行が会津60万石を与えられ、二本松東城には梅原弥左衛門、二本松西城には門屋助右衛門、四本松東城には玉井貞右、四本松西城には外池信濃守が城代となる。
1627年	寛永4年	加藤嘉明が会津40万石を与えられる。嘉明の娘婿松重綱に安達郡内46ヶ村の5万石が与えられる。
1628年	寛永5年	加藤明利が3万石で二本松に転封となる。
1643年	寛永20年	白河藩主丹羽光重が原禄のまま二本松移封となり、安達郡69ヶ村・安積郡41ヶ村の10万700石を領する。
1646年	正保3年	城内修築、郭内武家屋敷割、城下町割等の整備に着手する。
1657年	明暦3年	この年、二合田用水が完成か。
1661年	寛文1年	熊野・八幡の両社を栗ヶ柵に遷宮し、領内の総鎮守と定める。
1674年	延宝2年	隠津島神社(木幡弁財天)三重塔を丹羽光重の命で修復する。
1749年	寛延2年	備前岩井田昨非の進言により、藩庁門前の露頭巨石に戒石銘が刻まれる。
1767年	明和4年	城下松岡より失火し郭内に類焼、家中201戸・町家544戸が焼失する。
1786年	天明6年	二本松藩が赤子出生養育御達書を出す。
1790年	寛政2年	二本松藩が養老法を出す。

1817年	文化14年	藩校「敬学館」が開校する。
1834年	天保5年	久保丁に大手門が築造される。
1841年	天保12年	藩士大鐘義鳴が二本松藩の地誌「相生集」を完成させる。
1845年	弘化2年	この年か翌年、歌川(安藤)広重が百目木を訪れ、「陸奥安達百目木驛八景圖」を制作する。
1857年	安政4年	木幡の郷保与吉が農書「耕作稼穡八景」「桑蚕養草八景」を著す。
1868年	慶応4年	戊辰戦争により7月29日正午ごろ落城、戦死者337名、うち数え年13~17歳の少年隊士14名を含む。
1869年	明治2年	版籍奉還し、二本松藩主丹羽長裕は二本松藩知事となる。
1871年	明治4年	廃藩置県により二本松県が誕生、まもなく福島県に統合。
1872年	明治5年	二本松・小浜・針道などに郵便取扱所が開設される。
1873年	明治6年	機械製糸「二本松製糸会社」が城跡内で操業を開始する。
1876年	明治9年	町村に小学校開校。
1879年	明治12年	朝河貫一が根崎下ノ町にて出生。
1883年	明治16年	二本松が町制を施行する。
1887年	明治20年	郡制が発布され、安達郡役所が置かれる。
1889年	明治22年	安達初等師範学校(安達中学校)が開校される。
1900年	明治33年	東北本線二本松駅が開業する。
1901年	明治34年	町村制施行により単独町村は二本松町、塩沢(表・裏)・大平・油井・針道(小手森を含む)の各村、合併村は岳下村(高越・成田・永田・原瀬)、杉田村(館野・北杉田・南杉田・箕輪)、石井村(平石・鈴石・西荒井)、浜川村(浜川・吉倉・米沢)、下川崎村(下川崎・沼袋)、上川崎村(上川崎・小沢)、小浜村(小浜・小浜成田・西勝田・上長折・下長折)、新殿村(西新殿・杉沢・東新殿・初森)、旭村(田沢・百目木・茂原)、太田村(上太田・下太田)、木幡村(内木幡・外木幡)、戸沢村(南戸沢・北戸沢)が誕生する。
1900年	明治33年	安達太良山が大噴火する。
1901年	明治34年	小浜村が小浜町と改称する。

1903年	明治36年	二本松銀行が開業する。
1908年	明治41年	川俣電気株式会社太田村に広瀬発電所を建設する。
1910年	明治43年	安達郡役所編さんの「安達郡誌」が完成する。
1914年	大正3年	安達実業銀行が開業する。
1917年	大正6年	東北本線安達駅が開業する。
1918年	大正7年	小浜実業銀行が開業する。
1923年	大正12年	県立安達中学校が開校する。
1924年	大正13年	小浜自動車会社が小浜-二本松間に乗合自動車運行を開始。
1929年	昭和4年	二本松町上水道が完成、給水を開始する。
1935年	昭和10年	「旧二本松藩戒石銘碑」が国史跡に指定される。
1936年	昭和11年	この頃から、高村智恵子が紙絵の制作を始める。
1938年	昭和13年	高村智恵子がゼームス坂病院にて没する。遺作紙絵千数百点。
1941年	昭和16年	「木幡の大スギ」が国天然記念物に指定される。
1943年	昭和18年	東野辺薫が「和紙」で第18回芥川賞を受賞する。
1945年	昭和20年	「杉沢の大スギ」が国天然記念物に指定される。
1948年	昭和23年	小浜町で大火、住宅143戸を全焼する。
1949年	昭和24年	東北本線杉田駅が開業する。
1950年	昭和25年	世界的歴史学者の朝河貫一博士が没する。
1955年	昭和30年	学制改革で安達中学校が安達高等学校となる。
1955年	昭和30年	霞ヶ城公園が県立自然公園に指定される。
1955年	昭和30年	安達太良山が磐梯山等と磐梯朝日国立公園に指定される。
1955年	昭和30年	町村合併促進法により、二本松町(二本松町、塩沢、岳下、杉田、石井、大平村)、安達村(油井、上川崎、下川崎、浜川村)、岩代町(小浜町と新殿、旭の2村及び太田村の一部)、東和村(戸沢、針道、木幡の3村及び太田村の一部)が発足する。
1955年	昭和30年	霞ヶ城公園で菊人形展が始まる。

二本松の歴史が一目で分かる
にほんまつ歴史絵巻

1414年
畠山満泰が白旗ヶ峯に城を築く。

二本松城と名づけよう

1643年
白河藩主・丹羽光重が二本松移封となる。

二本松のまちづくりをせねば!

1749年
藩庁門前の巨石に戒石銘が刻まれる。

武士たるものに感謝し、ならぬ

1817年
藩校「敬学館」が開校する。

二本松藩のため、しっかりと学ぶのだぞ

1868年
戊辰戦争により7月29日正午ごろ落城。

「藩のため戦うことは武士の子として当然のこと。恐ろしいとは思わなかった。出陣前の夜などは、今の子どもの修学旅行の前夜のようなはしゃぎようだった。」少年隊士・武谷剛介の回顧談

1948年
朝河貫一博士が没する。

1895年渡米し、翌年ゲートマス大学に編入学。卒業後イエール大学に入学し、博士号を取得。その後イエール大学で日本文化史を教え、「日本の禍根」で日露戦争以後の日本外交を鋭く批判した。

1955年
霞ヶ城公園で菊人形展が始まる。

21 みんなのしあわせ 見つかるまち にほんまつ

みんなのしあわせ 見つかるまち にほんまつ 22



Column

朝河貫一、今に生きる百年を超える愛国の警告

世界の歴史に残る、100年に一度の規模の地震、さらに1000年に一度の大津波が東北三県の沿岸を襲った東日本大震災、そして東京電力の福島第一原発の重大事故。この大災害については数多くの調査、検証が国内外で行われた。なかでも原子力エネルギーの世界史に残る福島原発事故は、これからも数十年、いや世紀を超えて放射能と汚染水、環境、健康、またデブリ処理^{※1}、安全対策など世界の注目の的。日本には50基を、世界全体で400基を超える原子力発電所のすべてに寿命があり、使用済み燃料の処理、貯蔵は世界的な課題である。福島のような事故はまたどこで起こるか分からない。世界の注目が福島に集まるのは当然で、事故の教訓を世界と共有する姿勢が大事だ。

この大事故に対し「国権の最高機関」の国会は、事故後9ヶ月を経て「憲政史上初めて」となる「独立調査委員会」を発足させ、私が委員長に命を受け、歴史的調査が始まった。国内外の注目のなか委員会・記者会見は全て公開、英語の同時通訳付き、ネットでも公開、報告書は2012年7月5日に国会に提出され、今でも記録は「国会事故調ホームページ」^{※2}に日英語で公開されている。

調査が進むにつれ、事故の根幹には日本の政産官学メディアを巻き込んだ、近代民主国家にあるまじき「エリートの犯罪」「政府の失敗」ともいべき「規制の虜」状態があることが明らかになった。

委員長として報告書のまとめに集中する一方で、家族、生活、人生を失ってしまった多くの人たちに対して、そして福島の人たち、日本国民、世界の人たちへ、委員会委員、100名余のスタッフは、何を思い、考え、その精神をどう伝えるか、これは委員会では相談できない、私だけの責任だと認識していた。

頭に浮かんだのが朝河貫一先生(1873-1948)だ。二本松市の出身で、英辞書に学び、英語を修め、ダートマス大卒、イェール大博士、日本人初のイェール大教授となった偉人だ。彼の唯一の日本語著書「日本の禍機」での日本のエリート達への「心からの愛国の忠告」が、福島原発事故で見えた今の日本のエリートの大きな過ちに対する私たちの思いそのままだったことに深い感慨を抱いた。驚いたことに国会事故調の調査統括をお願いした宇田左近さんも二本松藩士のお家柄、また報告書が報道されるとすぐに電話をいただいた現セブン銀行特別顧問安齋隆さんも二本松市出身だったのだ。

安齋さんのお世話で国会事故調査と朝河貫一をテーマとした報告会を、二本松市で2013年8月28日開催^{※3}、二本松市民会館にバスを連ね、予想を超える多くの方にお越しいただいた。1200席ある大きなホールは満杯、急遽別室をしつらえテレビで中継もした。宇田さんが国会事故調査委員会の報告、私は、朝河貫一博士が100年以上前に日本へ警鐘を鳴らしていた思いと、私の思いが同じであることを紹介した。翌日は市庁舎、大隣寺(旧二本松藩主丹羽家菩提寺)、朝河博士ゆかりの地などを訪ねた。

二本松市は朝河博士の学んだダートマス大とイェール大に、中学生を毎年、短期視察研修に派遣している、とてもうれしい。このような若者が、どんな思いを持ち、自分の道を進むのか、とても楽しみなのだ。

今年の春、二本松市長よりご招待いただき、お花見を第18代藩主の丹羽ご夫妻、そして二本松市名誉市民橋本堅太郎さん(二本松城前にある二本松落城に命を落とした二本松少年隊の群像の作者)ご夫妻とご一緒する機会^{※4}を、また、最近では二本松未来戦略会議に参加する機会をいただいている。

明治150年が話題となっている今年ではあるが、東北では痛ましい戊辰戦争の記憶があり、維新後の東北人の紙めた辛酸の歴史を知る人がまだ多くいることを忘れるわけにはいかない。開国からまだ150年、つらい記憶はそんなに容易には消えないことは歴史の教えるところだ。



政策研究大学院大学名誉教授
黒川 清氏

Profile/医学博士。1969~84年在米、UCLA内科教授、東京大学内科教授、東海大学医学部長、日本学術会議会長、内閣特別顧問、東京電力福島原子力発電所事故調査委員会委員長などを歴任。現在は、政策研究大学院大学・東京大学名誉教授、日本医療政策機構代表理事を務める。
www.kiyoshikurokawa.com



—旧二本松藩戒石銘—

丹羽氏・二本松藩十萬七千石の大いなる遺産は、五代藩主高寛公が儒臣・岩井田昨非の進言により、藩士の戒め。を目的に藩庁門前の自然石に刻ませた[※]戒石銘碑、である。

【意味】「お前(武士)の俸給は、人民達があふらして働いたたまものである。お前は人民に感謝し、いたわらねばならない。この気持ちを忘れて、弱い人達を虐げたりすると、きっと天罰があらうぞ。」

二本松の歩み

1958年	昭和33年	二本松町が市制施行して、二本松市が誕生する。
1960年	昭和35年	町制施行により安達町と東和町が誕生する。
1970年	昭和45年	第1回東和ロードレース大会が開催される。 大阪万国博覧会に「二本松の提灯まつり」7町全ての太鼓台が展示される。
1972年	昭和47年	安達広域行政組合が発足する。
1973年	昭和48年	安達高等学校大平分校・岩代分校・針道分校が県立安達東高等学校として独立する。
1975年	昭和50年	東北自動車道の福島県域部分が全線開通する。
1981年	昭和56年	日山が阿武隈高原中部県立自然公園に編入される。
1982年	昭和57年	二本松城築輪門を再建する。
1984年	昭和59年	岳温泉が「ニコニコ共和国」として独立宣言する。
1984年	昭和59年	二本松市出身で世界的放射線医学研究家の高橋信次博士が文化勲章を受章する。
1991年	平成3年	高村智恵子の生家・旧長沼家を復元する。
1993年	平成5年	二本松城本丸跡の全面石垣復元・修築工事に着手、約5億3千万円を費やし平成7年に完成する。
1995年	平成7年	青年海外協力隊二本松訓練所が開校される。
		ふくしま国体が開催され、二本松が剣道・クレー射撃・ライフル射撃競技、東和がカーン競技、安達がゲートボール競技の会場となる。
1999年	平成11年	「石井の七福神と田植踊」が国重要無形民俗文化財に指定される。
1999年	平成11年	阿武隈川の大規模改修工事「平成の大改修」が着工する。
2001年	平成13年	和紙伝承館が開館する。
2004年	平成16年	「木幡の幡祭り」が国重要無形民俗文化財に指定される。
2005年	平成17年	12月1日、二本松市と安達町・岩代町・東和町の1市3町が合併し、新二本松市が誕生する。

2006年	平成18年	二本松市出身で日本画家の大山忠作氏が文化勲章を受章する。
2007年	平成19年	二本松城跡が国の史跡に指定される。
2008年	平成20年	龍谷坂に幸田露伴の碑が建立される。
2009年	平成21年	市民交流センター・大山忠作美術館が開館する。
		彫刻家で二本松市の名誉市民でもある橋本堅太郎氏が旭日中綬章を受章する。
2010年	平成22年	岩代総合文化ホールが開館する。
		名目津温泉がオープンする。
2010年	平成22年	菊人形のマスコットキャラクターが「菊松くん」に決定する。
		東日本大震災が発生。
2011年	平成23年	第1回二本松市一周駅伝競走大会が開催される。
2013年	平成25年	げんきキッズパークにほんまつが開館する。
		二本松市民の歌が制定される。
2013年	平成25年	道の駅「さくらの郷」、道の駅「安達」智恵子の里下り線がオープンする。
		黒塚の岩屋が「おくのほそ道の風景地」として国の名勝に指定される。
2014年	平成26年	二本松市合併10周年記念式典開催。
2015年	平成27年	二本松さくら展を開催する。
2016年	平成28年	城山市民プールが完成する。
		二本松市教育支援センターが開所する。
2017年	平成29年	二本松駅構内観光案内所がリニューアルされる。
		スカイピアあだたらアクティブパークがオープンする。

1970年
第1回東和ロードレース大会が開催される。

第1回の参加人数は120人、平成30年第49回のエントリー数は3,795人。



1991年
高村智恵子の生家を復元する。



2005年
二本松と安達・岩代・東和の1市3町が合併し、新二本松市が誕生。



市民が生き生きと暮らせるまちづくりを進めます。

※1 デブリ処理：原子炉の事故で炉心が過熱し、溶融した核燃料や被覆管および原子炉構造物などが冷えて固まったもの。
※2 参照：国会事故調 HP <http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3856371/naic.go.jp/en/>
※3 参照：黒川清氏ブログ <https://bit.ly/2O4ddck>
※4 参照：黒川清氏 Facebook <https://bit.ly/2zqcmKB>



祭り

Festivals

受け継ぎつなぐ二本松魂

Carrying on the spirit of Nihonmatsu

歴史と伝統を今に伝える二本松の祭り。二本松をにぎやかに彩る祭りは、故郷への熱い思いが込められた先人の語りこの場でもあります。祭りを通じて、いにしえから未来へ、二本松の魂をつないでいきます。

The love for our hometown is still alive today, carried on from ancient times and into the future through the festivals of Nihonmatsu telling of our history and traditions.



想いをつなぐ幾千の明かり

二本松の提灯祭り ちょうちん [県指定重要無形民俗文化財]

二本松の提灯祭りは今から約370年前、丹羽光重公が藩主となった際、「よい政治を行うには、領民に敬神の意を高揚させることが大事」と考え、現在の栗ヶ柵に二本松神社をまつり、領民が自由に参拝できるようにしたのが始まりといわれています。

福島県重要無形民俗文化財のひとつであり、秋の夜空を赤々と照らしながら練り歩く幾千もの提灯に、多くの見物客が心を奪われます。

Nihonmatsu Chochin Festival

[Prefecturally designated important intangible folk culture asset]

It is said the festival began 370 years ago to commemorate the feudal lord establishing Nihonmatsu Shrine. Today the festival is held over three days in October fascinating spectators with the thousands of lanterns that walk through the city.

PICK UP

歴史を受け継ぎ、次代へ伝え渡す 提灯祭りの若連とはそういう存在です。

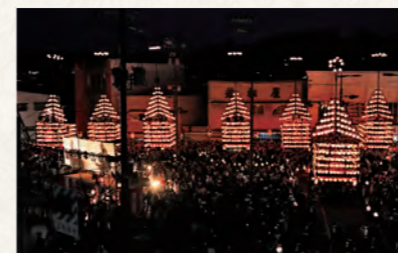
二本松若連連合会第64代会長 二階堂 敬祐さん



二本松の提灯祭りは、神を敬う心を育てるとともに人心をひとつにすることを目的に始められたお祭りです。それは今も変わることなく、人や故郷との絆を強める大きな要の行事となっています。354年にわたって先人方がつないできた、この大切な祭りを受け継ぎ守ることを考えるとあまりに重責ですが、神事の一つひとつをしっかりと行い、皆で力を合わせて次代に同じ形で渡さなければならぬと考えています。ただ、参加する人や見ている人が「楽しい」ということも祭りには大事です。私自身、子どもの頃に参加した提灯祭りの楽しさが忘れられず現在につながっています。今にして思えば、その楽しさは先人の方々が魂を込めて作り出してくれたもの。今度は私たちが、子どもたちに喜んでもらえる提灯祭りをつくらなければと思っています。変わりゆく時代の中で、変えずに守り続けていくことの格好良さを、子どもたちが感じ取ってくれればうれしいですね。

宵祭り

Day 1: Yoi-matsuri



夜に7町全ての太鼓台がそろって宵祭りは提灯祭りの一番のみどころ。この日は各町内から鈴なりの提灯をつけた太鼓台が威勢のいい掛け声とお囃子を奏しながら、市内を勇壮に練り歩きます。

This evening is the highlight of the festival. Taikodai floats adorned with hundreds of lanterns from each of the seven neighborhoods are paraded through the city as they play Matsuribayashi festival music.

本祭り

Day 2: Hon-matsuri



例大祭の最も重要な神事「神輿渡御」が行われます。昼間は七町合同の引き廻しが行われ、夜は各町内に戻った太鼓台が提灯に明かりをともして字内を練り歩きます。

The most important ritual of the festival, "Mikoshi Togyo" is held on this day. The taikodai floats are paraded throughout the city with elaborate sculptures during the day and with brightly lit lanterns at night.

後祭り

Day 3: Ato-matsuri



昼はそれぞれの町内を太鼓台が練り歩きます。夜は四町と三町の二つに分かれて合同引き廻しが行われ、四町は二本松神社前で、三町は霞ヶ城の眞輪門前でお囃子が奏されます。

During the day, the taikodai are paraded around their own neighborhoods with the magnificent sculptures. In the evening, the illuminated taikodai play Matsuribayashi festival music in front of Nihonmatsu Shrine and the Minowa gate at Kasumigajo Castle.

菊の薫りに秋を感じて

二本松の菊人形

二本松では、藩政時代から菊の愛好家が多く、昭和初期から町には菊人形が飾られていました。その後、昭和30年に二本松城跡を舞台に菊の祭典として開催されたのが、二本松の菊人形の始まりです。

現在では、熟練の職人がつくり上げた菊人形や世界でも類を見ない規模の千輪咲など、華やかな菊が会場全体を彩る二本松の秋の風物詩となっています。

Nihonmatsu Chrysanthemum Dolls

In Nihonmatsu, there have been large numbers of chrysanthemum enthusiasts for hundreds of years, and the Chrysanthemum Festival has been held at the remains of Nihonmatsu Castle since 1955. The highlight is the chrysanthemum dolls whose clothing are represented by combining vast numbers of chrysanthemums and chrysanthemums with hundreds of flowers blooming on one stalk.



災いを吹き飛ばす豪快なけんか祭り

針道のあばれ山車 (諏訪神社例大祭)

400年以上の伝統を誇る諏訪神社の祭礼で、宝暦8(1758)年には、凶作や疫病に際して人形を飾った山車を奉納したという記録が残っています。戦による神社の荒廃や幕府の祭礼自粛など、幾度も消失の危機にひんしましたが、地域の人々の熱意と努力によって受け継がれてきました。今では大きな人形を飾った山車を豪快にぶつけ合う、勇壮な祭りとして知られています。

Harimichi no Abare Dashi

Suwa Shrine's festival boasting over 400 years of tradition. It is said the festival began in the time of failed harvests and plague outbreaks when floats adorned with dolls were offered at the shrine. Today it is known as a festival of bravery where the floats decorated with giant dolls boldly crash into one another.



子の健やかな成長を見守る

万人子守地藏尊例大祭

伊達輝宗が息子である政宗の身体堅固、武運長久を願い、まつたと伝えられる万人子守地藏尊は、奥州唯一の子どもの守り本尊として県内外から多くの信仰を集めています。例大祭では、子どもの健やかな成長を願い借り受けた、木彫りの小さな地藏を里帰りさせ、祈祷後再び借り受ける参拝者でにぎわいます。きれいに着飾った子どもたちが御詠歌に合わせ奉納する稚児舞も見どころです。

Mannin Komori-jizoson Annual Festival

Mannin Komori-jizoson, which is said to have been worshipped at by the Date clan of samurai in the 16th century to pray for their sons' health and good fortune as warriors, is believed to enshrine the god that protects children. The highlight of the annual festival are the beautifully costumed dancing children.



五色の幡に人々の思いが翻る

木幡の幡祭り

[国指定重要無形民俗文化財]

Kohata no Hata Festival

[Nationally designated important intangible folk culture asset]

This festival originates with an incident over 950 years ago when during war, the opposing army mistook the falling drifts of white snow for their enemy's white flag and ran off. The ancient rituals remain alive and well highlighting the festival with a parade of more than 100 flags of five different colors.

復興を願う先人の願いを今に

小浜の紋付祭り

(塩松神社例大祭)

天明の飢饉の際、村内の復興のために藩主丹羽氏に嘆願し、御紋章の使用と神輿渡御が許され始まったとされる塩松神社の例大祭。紋付き羽織はかま姿の氏子たちが笛太鼓の囃子を奏しながら太鼓台を引き回すことから小浜の紋付祭りとも呼ばれています。

3日間行われる祭りの最終日には、若連によるパフォーマンスが披露され、厳粛な本祭りとはまた違った雰囲気を楽しめます。

Obama no Montsuki Festival

It is said this festival at Shiomatsu Shrine began in order to revive the area in the 18th century when a great famine occurred. The name Montsuki Festival (lit. Crested Festival) comes from the men pulling the taikodai floats who wear hakama bearing their family crests, or kamon.



event calendar

4月◆April

二本松の桜まつり
合戦場のしだれ桜まつり
大杉まつり

5月◆May

万人子守地藏尊例大祭
小浜長折三匹獅子舞
□太山山開き
安達太良山山開き
羽山山開き

6月◆June

日山山開き

7月◆July

東和ロードレース大会
二本松少年隊顕彰祭・墓前祭

8月◆August

木幡の三匹獅子舞
智恵子の里安達夏祭り
岳温泉仮装盆踊り大会
原瀬の長獅子

9月◆September

東和ふるさと祭り

10月◆October

二本松の提灯祭り
塩松神社例大祭 (小浜の紋付祭り)
針道のあばれ山車
二本松の菊人形
高村智恵子追悼会「レモン忌」
岩倉の三匹獅子舞
日山・旭神社三匹獅子舞
白鳥神社祭礼・太々神楽
鈴石神社の太々神楽

12月◆December

木幡の幡祭り
あだたら高原スキー場開き
塩沢スキー場開き

1月◆January

岳温泉神社元朝参り
広瀬熊野神社の御田植祭り
石井の七福神と田植え踊り

2月◆February

にほんまつ伝統芸能祭

自然

Nature

笑顔かがやく美しい故郷

Beautiful natural scenery spreads throughout Nihonmatsu

西に安達太良連峰、東に阿武隈山系が広がり、中央に阿武隈川が流れる自然豊かな二本松。四季折々に違った表情をみせる美しい故郷の上には「ほんとの空」が広がっています。

Nihonmatsu is rich in natural scenery with the Adataro mountain range spreading to the west and the Abukuma mountain range to the east with the Abukuma River flowing down the center. Enjoy the beauty of the four seasons here.

歴史を伝える三春の孫桜 合戦場のしだれ桜

八幡太郎義家と安倍貞任・宗任兄弟との合戦場跡と伝わる地に立つ2本のベニシダレザクラ。日本最古級のしだれ桜「三春滝桜」の孫桜で、見頃には祖母に匹敵するほどの見事な景観を見せてくれます。

Weeping Cherry Trees at Kassenba

Two sakura (cherry) trees stand on this ancient battlefield. It is said they are the offspring of one of Japan's oldest cherry trees, the Takizakura cherry tree in Miharu.



眺望が見事な信仰の山
日山

阿武隈山系第二の高峰。山頂からの視界が広く、条件が良ければ太平洋を望むこともできます。山頂付近には三つの社がまつられ、古くから信仰の山としてあがめられてきました。

Mt. Hiya

Worshipped as a sacred mountain since ancient times. The view from the summit is far-reaching and if the conditions are right, you can see all the way to the Pacific Ocean.



自然豊かな東和の秀峰
羽山

東和地域の最高峰で、昔から信仰の山として地元で親しまれています。春には山つつじ・レンゲつつじ、スズランが咲き誇り、富士山が見える山といわれています。

Mt. Hayama

The highest mountain in the Towa area. It is said to be a mountain with a view of Japan's highest peak, Mt. Fuji.



伝説に彩られたロマンの山
口太山

古くは白鹿伝説、大蛇伝説などが伝えられてきたロマンの山。中腹にある夏無沼周辺にはキャンプ場があり、涼を求めて夏には町内外から多くの人々が訪れます。

Mt. Kuchibuto

There is a campground near Natsunashi Pond, which lies halfway up the mountain and is visited by large numbers of people in the summer seeking a cooler climate.

錦秋が美しい百名山の名峰 安達太良山

磐梯朝日国立公園内にある安達太良山は、日本百名山にも選定されている標高約1,700mの山です。広くなだらかな稜線で、登山初心者でも安心。高山植物が豊富で、秋の紅葉も見事です。

Mt. Adataro

This mountain, which has an elevation of 1700 m, stands in a national park. The ridgeline is broad and gentle making it easy to climb, even for beginners. There is an abundance of alpine plants and the changing autumnal leaves are truly a site.



風光明媚な渓谷美を堪能
あだたら渓谷奥岳自然遊歩道

安達太良山に源流をもつ烏川沿いの遊歩道で、小さいながらも迫力のある5つの滝と平滑床などの渓谷美を堪能できます。新緑時はもちろん紅葉も美しく、手軽なハイキングコースとして親しまれています。

Adataro Gorge Okudake Nature Trail

Enjoy impressive views of waterfalls and valleys along this river front trail. This easily reached hiking course displays beautiful new green foliage of spring and changing autumnal leaves.



滝の絶景や紅葉が見どころ
湯川渓谷

安達太良山の塩沢登山口から入る景勝地。至るところに滝と絶壁が連なる様は見応え十分。三階滝や八幡滝、屏風滝などのほか、天狗岩などの奇岩怪石も見事です。紅葉の名所でもあります。

Yukawa Gorge

A gorge in Mt. Adataro offering a spectacular array of waterfalls, cliffs, and rock formations. It is famous for its changing autumnal leaves.



境内に広がる美しい色彩
高林寺のあじさい

あじさい寺として知られる高林寺には、境内に約20種類5,000本のあじさいが植えられ、毎年6月下旬から7月上旬にかけて、美しいあじさいが咲き誇ります。

Hydrangea at Korinji Temple

Approximately 20 types and 5,000 hydrangea flowers are grown on the temple grounds displaying their blossoms from the end of June through the beginning of July.



阿武隈川が作り上げた景勝地
稚児舞台

阿武隈川が作り上げた奇岩怪石が連なる景勝地で、八幡太郎義家と安部氏にまつわる伝説が残っています。ユキヤナギの群生地でもあり、渓谷と樹木の自然のコントラストを楽しめます。

Chigobutai

This scenic spot is home to unusual rock and stone formations. In the spring you can see the small white flowers of Thunberg's meadowsweet.



いで湯の里の桜のトンネル
岳温泉桜坂

安達太良山中腹の岳温泉街から鏡ヶ池公園へと続く桜坂は、その名の通り、春爛漫の季節、満開の桜のトンネルとなります。桜並木と残雪の安達太良山のコントラストが素晴らしい景色です。

Sakurazaka at Dake Onsen

The sloped road from Dake Onsen to Kagamigaike Park is lined on both sides with cherry trees. In spring, enjoy the cherry blossoms in full bloom.

昼夜で異なる姿を楽しめる美桜 中島の地藏桜

推定樹齢150年、樹高約10m、枝張り約30mの見事なベニシダレザクラ。ライトアップ時には、水田を鏡にその姿が映し出される幻想的な夜桜を楽しむことができます。桜の後ろに雪の安達太良山を見渡す、のどかな昼の景色も見どころのひとつです。

Jizo Cherry Tree in Nakajima

This beautiful cherry tree is estimated to be 150 years old and stands 10 m tall. In the evening, you can enjoy the fantastic night blossoms as the tree is illuminated.





伝統 工芸

Traditional Crafts

まちに息づく、 技と心

Traditional techniques
giving life to the region

二本松では、平安の昔から「まゆみがみ」と珍重されてきた上川崎和紙を始め、藩主丹羽氏の奨励政策のもと栄えた産業の数々が伝統工芸として今なお大切に守られています。

In Nihonmatsu, numerous traditional crafts are preserved to this day, including washi paper, which has been a prized craft for 1000 years.

熟練の技が生み出す
美しく力強い面

獅子頭 〔福島県伝統的工芸品〕

二本松の獅子頭は1本の桐を彫る「くりぬき製法」で作られ、丈夫で長持ちすることで知られています。左右対称の獅子の顔を作るには、100種類以上のノミを自在にあやつる熟練の技が必要です。中でも難しいのは荒彫りで、仕上がりの要となります。その違いは漆を塗った後でも一目瞭然。美しい獅子を生み出すには緻密で丁寧な荒彫りが必要とされます。

Shishigashira (Lion mask) [Fukushima Prefecture traditional handicraft]

The shishigashira mask worn in traditional dance is carved from a single tree in Nihonmatsu and known for being strong and long-lasting. Making the symmetrical mask requires sophisticated techniques with the use of more than 100 types of chisels.



職人が材料選びから仕上げまで
すべての工程を一貫して担当

二本松伝統家具 〔福島県伝統的工芸品〕

二本松伝統家具は300年の歴史があり、城づくりに携わった大工職人が城内の調度品も手がけ、その技術が筆笥づくりに生かされてきたといわれています。明治に入ると家具づくりが盛んになり、昭和初期には50軒ほどの家具店が軒を連ねました。特に竹田坂には20数軒の店が集まっていたため、今でも家具の街といわれています。

職人の手作りで1品1品丹念に仕上げられ、表面に傷のつきにくい櫨、内側に吸湿性の高い桐材を使用し、丈夫な組み方を用いた漆塗りが多いのが二本松伝統家具の特徴です。近年は飾り金具に「松」と「菊」をあしらった「二本松城家筆笥」という統一ブランドが発表され、現代の暮らしに合わせて色やサイズ、素材などを見直したデザイン性・インテリア性の高い家具も作られています。



Nihonmatsu Traditional Furniture [Fukushima Prefecture traditional handicraft]

This furniture has a history of approximately 300 years carried on from the techniques used by carpenters and craftsmen involved in building the castle for the Nihonmatsu domain. Each and every piece of furniture is carefully built by a craftsman. It is characterized by the large number of durably constructed lacquered pieces. In recent years, stylishly designed furniture is being tailored to modern life.

藩政時代から続く伝統技法を守る
唯一無二の窯元

二本松萬古焼 〔福島県伝統的工芸品〕



江戸末期の安政年間
に山下春吉によって開
窯されました。その後、
茶道に興味をもつ士族
らも製作するようになり、
明治には失業士族
の授産産業として栄え
ました。現在は井上窯
一軒が残るのみで、地

元産の粘土を使い、独自の手ひねり型くずし製法で製作しています。指先で形をつけた指紋や梅花模様が特徴で、手ひねりならではの温もりにあふれ、使うほどに艶が増す味わい深い焼き物です。



Nihonmatsu Bankoyaki Pottery [Fukushima Prefecture traditional handicraft]

These ceramics made in Nihonmatsu since the latter half of the 19th century feature a plum blossom pattern on their surface crafted with the potter's fingertips. The charm of Nihonmatsu Bankoyaki pottery is that the longer it is used the more its unique handmade taste reveals itself.

紫式部や清少納言も愛用した
手すき和紙

上川崎和紙 〔福島県伝統的工芸品〕

上川崎地区は千年以上の歴史を誇る手すき和紙の里で、大正から昭和にかけては東北最大級の和紙の産地として知られていました。その起源は平安中期の冷泉天皇の時代までさかのぼり、紫式部や清少納言たちに愛された「まゆみがみ」もここですかれたものだといわれています。丈夫で独特の風合いをもつ上川崎和紙は、現在でも書画や民芸品の材料として高く評価されています。



Kamikawasaki Washi paper [Fukushima Prefecture traditional handicraft]

This handmade washi paper has a history of more than 1000 years in the Kamikawasaki area. It is acclaimed for its durability and texture and is still used today as folk craft material and calligraphic works.

PICK
UP

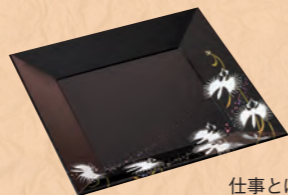
昔の職人から学び、時代を超えてつながる——。
この仕事を大切に受け継いでいきたい。

橋本仏具彫刻店 橋本 和成さん

私は橋本仏具彫刻店の五代目になります。初代はもともと社寺彫刻をしており、その関係で仏壇や神輿・獅子頭など、神仏に関わる彫刻物の制作から修理まで広く請け負うようになりました。代々続くこの仕事をしていると、初代が作った仏壇を2代目・4代目が修理し、それを再び私たち兄弟が直すなど、貴重な経験をすることもあります。私たちは先代を早くに亡くしたので、一緒に仕事はできませんでしたが、それでも彼が残した仕事や道具を見れば、どんな思いで作業に臨んでいたのかが分かります。私たちが引き継ぐ仕事は、長く受け継がれしかも人々が信仰のため手を合わせるものが多いので、大事に作業しようと気が引き締まりますね。仕事を始めた当初は「上手に作ろう」と思っていたのですが、最近は技術的なことよりも自分の心を込めることを大切にしています。常に全力で臨む弟とは言い争いになることもありますが、2人の力を合わせて最高のものができればと思っています。



(右から) 橋本和成さんと弟の篤さん



仕事とは別に自分の「作品」をつくる事も大切にしている。写真は篤さんの蒔絵四方盆「爽翔」

日本酒

酒どころ二本松には、市内に4つの酒蔵があります。国内外で高い評価を受けている歴史ある蔵から地元で愛される地酒の蔵まで、安達太良山の伏流水を使用してつくる日本酒は、奥深くふくよかな味わいが自慢です。

Japanese sake

The production of Japanese sake is thriving in the city of Nihonmatsu where there are four sake breweries. The sake produced here with runoff from Mt. Adatarata has a deep-seated flavor and is highly acclaimed both domestically and overseas.

食

Foods

こころほころぶ故郷の味

The refined flavors of Nihonmatsu

城下町として歴史を刻む中で、酒造や菓子づくりなど、「味」に磨きをかけてきた二本松。伝統に裏打ちされた味から地域おこしによって生まれた新しいグルメまで、滋味に満ちた自慢の逸品がそろっています。

Nihonmatsu, whose history was written as a castle town, refined its flavors through the production of Japanese sake and confections. There are plenty of delicious treats here from traditional foods to new style gourmet dishes.



玉羊羹

江戸時代には各地の大名に所望され、将軍家にも献上された羊羹の製法はそのままに、いつでもどこでも食べられるようにと戦中にその形が開発された玉羊羹。小さな一粒に歴史がギュッと詰まった昔ながらの味わいです。

Tamayokan (Japanese confection)

In the Edo period, the Nihonmatsu feudal lord presented the shogun with yokan. Generally, yokan is rectangle-shaped, but in Nihonmatsu, a bite-sized, round yokan was developed during the Second World War.



果実酒

地元で収穫されたブドウやリンゴを使って丁寧に造られたワインやシードルは、香り高く優しい味わいが特徴。JALの機内誌で紹介されたり、JR東日本の豪華寝台列車の車内で提供されたりと評価が高まっています。

Fruit Liqueur

The wine and ciders made from locally-produced fruit are characterized by their aromatic and gentle flavors.



二本松グルメ
Nihonmatsu Gourmet Dishes



◆安達太良カレー

新鮮な野菜やブランド肉など地元の食材をふんだんに使ったご当地カレー。市内17店舗がそれぞれ工夫を凝らしたオリジナルのカレーを作っており、個性豊かな味わいが楽しめます。

Adatarata Curry

Curry made from locally grown fresh ingredients. Each of the 17 shops in the city offering Adatarata Curry has its own unique flavor.



◆ざくざく

江戸時代から冠婚葬祭に欠かせない一品として食べられてきた郷土料理。人参・大根・ゴボウ・鶏肉など、さいの目に切られた、たくさんの具材の旨味を楽しむことができます。

Zakuzaku Soup

This local specialty is eaten on special occasions from ancient times. It includes a variety of ingredients, such as carrots, daikon, burdock root, and chicken.



◆ごんぼコロッケ

「ごんぼ」とは地元の方で「ごぼう」のこと。具材はごぼうとじゃがいものみとシンプルですが、嚼む度にごぼうの味が広がる人気のコロッケです。市内の道の駅で販売しています。

Gonbo Croquette

This simple dish is made from only potato and burdock root. Every time you bite into this popular croquette the flavor and aroma of the burdock root emanate.



桑製品

アイスやジャム、お茶、リキュールなど、ビタミン・ミネラルが豊富で、血糖値を下げる効果もあると言われる桑を使ったさまざまな製品があります。

Mulberry Products

There are an assortment of foods made using mulberry fruit and leaves, including ice cream, jam, tea, and liqueur.

にほんまつ百彩

四季折々の美しい自然と城下町ならではの深い歴史を感じることができる二本松。百人百様の楽しみ方ができる懐の深さが自慢です。ぜひ、あなただけの二本松を満喫してください。



智恵子記念館・智恵子の生家

詩人・彫刻家として名高い高村光太郎の妻・智恵子の記念館。明治初期に建てられたつくり酒屋の生家とともに、芸術家であった智恵子の油絵や紙絵、光太郎が家族に宛てた書簡などを鑑賞できます。



上り線



下り線

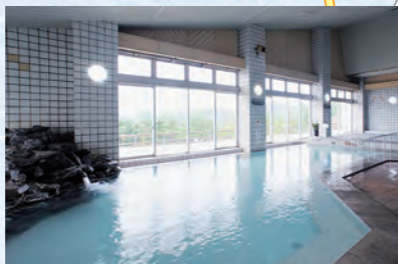
道の駅安達

国道4号上下線ともにある全国的に珍しい道の駅。地元二本松市の銘産品や新鮮野菜、果物などがそろいます。上り線には、二本松市上川崎地区に古くから伝わる上川崎すきと紙の伝承館があり、気軽に紙すき体験ができます。下り線には、広い芝生広場と下り線のシンボルでもある「万燈桜」があり、春には桜と安達太良山を一望できるビュースポットとなっています。焼き立てパンが常時40～50種類楽しめる二本松ペカリーもあり、上下線で一日を満喫できる道の駅です。



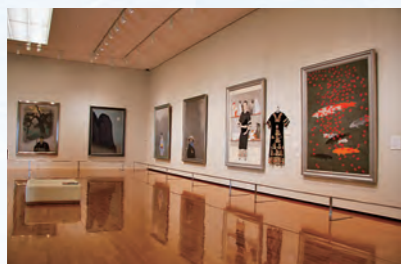
岳温泉

坂上田村麻呂が東征の折に発見し、江戸時代には水戸黄門も湯治に訪れた名湯。全国でも珍しい酸性泉で、源泉から引かれるうちに自然と湯もみされた湯は肌に優しくとても温まります。



スカイピアあだたら

あだたら高原にあるレジャースポット。広々とした芝生広場でのびのびと遊ぶことができるほか、圧注浴・泡沫浴といったさまざまな湯船が楽しめる温泉やレストランがあります。



大山忠作美術館

二本松出身の画家で、現代日本画壇の重鎮として活躍した大山忠作氏の美術館。寄贈された169点の作品のうち、日展の大作を中心に個展作品や素描など、常時30点以上を展示しています。



二本松しんきん城山プール (城山市民プール)

25mプールはもちろん、流れるプールやウォータースライダー・幼児プールがあり、家族みんなで水中運動が満喫できます。キッズコーナーや授乳室、軽運動ができる多目的施設も完備しています。



安達ヶ原ふるさと村

広々とした敷地内に養蚕農家や武家屋敷などが再現され、先人の暮らしを体感できます。五重塔や和紙工芸体験施設のほか、屋内遊び場、お土産処も充実しており、子どもから大人まで楽しめます。



道の駅 ふくしま東和

地物野菜や特産物・木工品などさまざまな手づくり製品が並びます。中でも桑の葉茶や桑の実ジャムなどの桑製品は豊富。和食や本格中華が味わえる食堂、ジェラート店などがあり、食も堪能できます。



道の駅 さくらの郷

地粉の手打ち蕎麦などが味わえる手づくり自慢の食堂と地ビールや石窯ピザなどが購入できる直売所が併設。惣菜の品ぞろえも多く、特にごぼうの香り高いサクサクの「ごんぼコロッケ」はおすすめです。

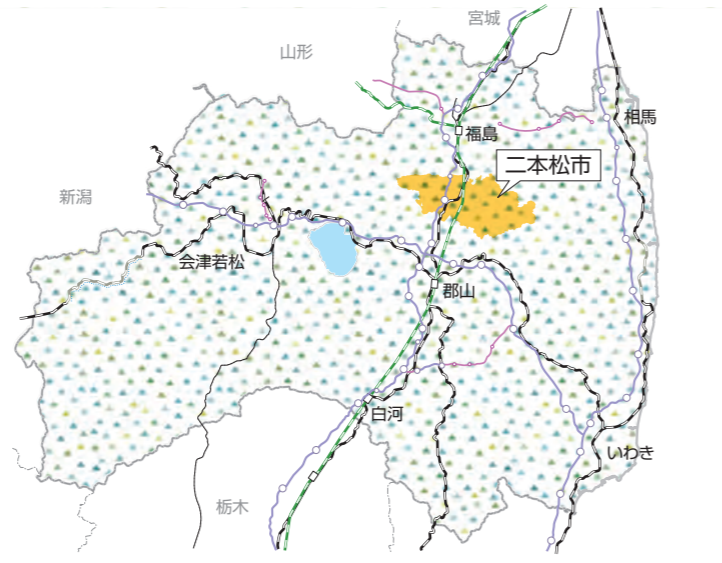


名目津温泉

日山の麓を流れる口太川沿いにある日帰り入浴施設。泉質は単純弱放射能冷鉱泉で飲用もできます。古来より皮膚病に効く温泉として知られており、神経痛や筋肉痛、痛風などの効能があります。



二本松市は、県都福島市と郡山市の間に位置し、西部の安達太良山麓、阿武隈川が流れる中央部の平坦地、東部の阿武隈地域の3つに分かれています。東西約35kmに及ぶ広大な市域を有し、中心市街地は二本松藩十万石の城下町の風情を今に残す歴史と自然あふれる都市です。



総面積 344.42km²

北緯 37度35分 / 東経 140度26分

人口 55,181人 (2018年10月1日現在)
※住民基本台帳人口

世帯数 20,006世帯 (2018年10月1日現在)
※住民基本台帳人口

【二本松市章】



二本松のイニシャル「N」をモチーフにした躍動感あるフォルムをシンボライズしました。中心に集まる形は安達地方の中心都市であることの象徴と市民の調和と団結を表し、未来へ向かい躍進する市の未来像をデザイン化しています。緑は美しい自然、特に安達太良と阿武隈の山並みを、青は市の中心を流れる阿武隈川を表しています。

【二本松の花木鳥】



花

flower : 菊



木

tree : 桜



鳥

bird : うぐいす

【二本松市の歌】

平成 25 年 3 月 23 日制定

作詞 朝倉 修 / 補作詞 湯浅 譲二 / 作曲 湯浅 譲二

1 番
 あだたら みね ひ は
 安達太良の峰 陽に映えて
 あぶくま みず きよ
 阿武隈の水 清らかに
 しき はな
 四季も華やぐ このまちに
 きぼうかな あさ
 希望奏でる 朝がある
 ひかり にほんまつ
 ああ 光あふれる 二本松
 ほんとの空が ここにある

2 番
 あおぞら ま はな
 青空に舞う 花ふぶき
 やさしく うた
 歌う うぐいすよ
 いのちかがや
 生命輝く このまちに
 しあわ はこ かげ
 幸せ運ぶ 風がある
 りぞう にほんまつ
 ああ 理想あふれる 二本松
 ほんとの空が ここにある

3 番
 かすみ じょう
 霞が城の しろあとに
 ゆ ちようちん はやし ね
 揺れる提灯 囃子の音
 ぶん か きら
 文化煌めく このまちに
 あか えがお ゆめ
 明るい笑顔 夢がある
 ろまん にほんまつ
 ああ 浪漫あふれる 二本松
 ほんとの空が ここにある

【友好都市】



二本松市では国内 1 都市、海外 2 都市と友好都市協定を結んでいます。特に米国ハノーバー町には、毎年、中学生の派遣事業を行うとともに、ダートマス大学生の受け入れを行うなど、相互に交流し合い、青年海外協力隊訓練所がある市として市民の国際感覚の醸成に努めています。

中国湖北省京山県

1994年10月16日提携

霞ヶ城公園にある国史跡「旧二本松藩戒石銘碑」を縁として友好都市協定を締結しました。

アメリカ合衆国 ニューハンプシャー州ハノーバー町

1999年7月30日提携

二本松市が生んだ世界的歴史学者・朝河貫一博士が学び、教鞭を執ったダートマス大学があるまちとして、友好都市協定を締結しました。

長野県駒ヶ根市

2000年5月29日提携

青年海外協力隊訓練所がある市として友好都市協定を締結しました。

【議 会】

議会は 22 名の議員で構成され、年 4 回の定例会をはじめ、必要に応じて開かれる臨時会で、条例や予算などを審議しています。効率よく専門的な審査や調査をするために、総務市民・産業建設・文教福祉の 3 つの常任委員会と議会運営委員会が設置されています。また、特定の事項を調査する場合には、特別委員会が設置されます。

開かれた議会運営を目指し、年 4 回「にほんまつ市議会だより」を発行するほか、ウェブサイトで会議録の掲載や本会議の映像配信も行っています。

